# 清流

題字：芳野 充

令和２年7月30日
第43号

発行所　加来不動産㈱
発行者　加来　寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23


穏やかに
静かに
清流のように

## 品性豊かな人生

幼少のころ、「モノは出したら元の場所に戻す」「お茶碗はかかえて食べなさい」「肘をついて食べない」「くちゃくちゃと音を立てて食べない」などと、よく母親から注意されていました。気づけばいま、同じようなことを子どもたちに注意しているわたしがいます。当時は口うるさい親だ、程度しか思っていませんでしたが、「親の小言と冷酒はあとで効く」と言いますが、正にそのとおりだと実感します。

また仕事上で、人がおおく集まる場にも顔をだす機会がありますが、そのような場面で、とても品がある人だと感じる方がときおりいらっしゃいます。なかなか見かけないだけに、そのような方を目前にすると、わたしの品性のひくさを見すかされているようで、とても緊張します。

わたしが人生の師と仰ぐ、素心学塾塾長の池田繁美先生もそのような方なのですが、池田先生曰く、「品とは、その人が、生まれてから現在までに修養し身につけてきた人格の達成度合い」とおっしゃいます。また、品性を高めるには「徳」を身につけることが重要で、品性が高まっているかを量るモノサシとして、次の「二十の徳目」をあげています。

**素直**（人の話や身のまわりに起こるできごとをあるがままに受け入れる、クセのない心）、**謙虚**（えらそうにせず、つつしみ深い態度）、**礼儀**（相手をうやまい、不快さを与えないこと）、**誠実**（まじめでウソがなく正直であること）、**勇気**（いざというとき、ものごとをおそれず、腹を決めて行動すること）、**平静**（落ち着いて、心静かにかまえること）、**清潔**（身も心もすがすがしく、汚れていないこと）、**和顔**（柔和なほほえみのある表情）、**愛語**（正しく、やさしい言葉づかい）、**温厚**（おだやかで情に厚いこと）、**義理**（恩を返すためにおこなうべきこと）、**鷹揚**（ゆったりとして、コセコセしない態度）、**明朗**（晴れ晴れとして、ウソやごまかしのない心）、**機敏**（機をのがさず、手ぎわよく処理すること）、**忍耐**（思うようにならないときでも、じっと辛抱すること）、**寛容**（相手を包み込む、広い心）、**献身**（損か得かではなく、ただ相手のために尽くすこと）、**努力**（適正な目標を立て、達成できるまで行動しつづけること）、**責任感**（自分が引き受けた任務を最後までやりとげる覚悟）、**正義感**（道理に反することがあれば、それに立ち向かっていく気骨）。

「ご飯はこぼさず食べなさい」と子どもに注意すると、「お父さんもやん」と返ってくる今のやりとりに終止符を打つべく、「二十の徳目」を少しでも身につけ、品性豊かな人生を目指したいと思います。

加来　寛